

第3回 高2英語

総 評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(3) 誤答としては **a** が多かったが、‘～ is one thing; … is another’ (～と…は別ものである) という表現を知っていたかが問われた。

問題B

Part 1 (1) ～ (2) は比較的よくできている。

(4) は **foods** と書いている受験生もいたが、**food** は不可算名詞で、複数の種類を念頭において言う場合以外は **s** をつけない。

Part 2 今回はスペルミスや、単語の抜けや単語の誤りなどは一律、配点分の減点とした。

(ア) では **there are** はできているものの、**kind** を複数形にできていなかったり、**communication** を複数形で書いてしまったりしたものなどが見られた。

(イ) でも **a number of** の **a** が抜けたもの、あるいは **a number of** ができているのに、**technology** を複数形にできていないものなどのミスが多かった。ディクテーションでは一般的に **a, of, the** のように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、自分の解答が文法や語彙の知識に照らして誤りがないか確認することに注意したい。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) **ウ**から始められなかった解答が目立つ。また、**ウ**のあとに**オ** (**specialized**) の方を選んでしまったものも多かった。どの過去分詞を **kept** の補語にするかは文脈の理解が不可欠。

(2) は比較的よくできているが、**only** を入れる位置を誤ると文脈がつながらなくなってしまう。

(3) (4) もよくできていた。

(5) の誤答では **had been known about Leonard's work** (**ウ** → **イ** → **エ** → **ア** → **オ** → **カ**) というものが大変多い。**if** の省略で疑問文の語順になるというところまでは理解できていたが、疑問文の形について「助動詞を含む文は助動詞を文頭に出して疑問文を作る」という点について理解がややふやだったということになる。

問題B 和文英訳

タイムカプセルを掘り出すにあたっての語り手の心情をテーマにした出題。日本語の字面にとらわれず、訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

④「思い出す」: **remind** は「人に～を思い出させる」なので、ここで **I** を主語にしては使えない。

「胸をおどらせていた」: **be interested in** や **be happy about** ではこの意味合いには少し弱い。「わくわくしていた」ということなので **be excited about** [**by**; **at**; **over**] に思い至りたかった。**look forward to** (= **to be excited and pleased about something that is going to happen** (LDCE)) を用いたものは許容とした。

⑤「…だろうと思いました」: **I thought there were few people** は、時制について注意深くなりた。い。「悪天候」: ここでは特定の日の天候を言うので **the** をつけて使うことに注意しよう。「歓声」: **cheer** は思いつかなかったと思うが「喜びの声」と考えて **cries** [**shouts**] **of joy** と工夫して訳せば合格。「裏切られた」では **betray** を使った直訳では通じないが、そのような訳は少なかった。「予想」: **prediction** :

supposition ; anticipation など許容。

◎「虫捕り」の動詞には capture ; collect も使える。hunt はもっと大きな動物を「狩る」という意味なので不適当。「虫」には insect のほか、bug も使える。worm は「毛虫 ; 芋虫」を指し、意味がせまくなるのでここでは使えない。「歯が立たない」(= 打ちまかせられない) では beat のほか、defeat も使える。「～となると」には最適の定形表現 when it comes to ～があることをここで確認しておきたい。このイディオムを使わない場合は Ryota was much better at catching insects than me などとも表現できる。

3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(33語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点から0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答案は内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

解答・別解では「60歳になったら～返納する」ことも記述内容に含めて全体としてひとつの主張になるようにまとめる形にしているが、今回の試験の答案としては「その意見に賛成[反対]」という書き方のものも許容した。また、文字通り「賛成[反対]だ」と述べていなくても「返納する必要はないと思う」だけでも反対の意志が読み取れるので許容とし、また「60歳」という年齢に注目し「60歳での返納は早すぎるので反対だ。70歳であれば妥当だと思う」など、条件付きで反対しているものも許容。賛成意見としては「事故を起こす危険性が高い」、反対意見としては「買い物など、生活に必要」などの理由を挙げた答案が多かった。同じ内容を繰り返すだけのものや、理由をいくつか挙げただけで箇条書きに近いものは主張の説得力に欠けてしまうので気をつけよう。

4 長文読解

「選択」をテーマにしたエッセイ。やや抽象的な箇所もあり読みづらさを感じたかもしれないが、著者の体験を述べている箇所を手がかりにすれば趣旨を読み取れたのではないかな。

(3) while を「…であるのに[である一方]」という‘対照’を表す接続詞で訳すべきところ、「…の間」と訳しているものが多かった。we may not always have … と後ろの we always have … が手がかかりとなった。have control over ～ の control を「操作する」と訳したものが多かった。また among はここでは「(選択肢の) 中から [中で]」と訳すほうがより自然だろう。may を訳出していない答案も多く見られたが、ここでの may は‘推量’を表し文意からも訳出は必要だろう。

(4) 空所Bについて、文脈の読み解きと熟語の知識を問う問題であった。正解のbを挙げられた受験生は少なかった。選択肢aを選んだ解答も多くあったが、come by (手に入れる) は正反対の意味なので注意しよう。

(5) 第1段落で述べられた内容と第2段落以降の内容のつながりに戸惑いを感じたかもしれない。エッセイでは論説文より段落の展開がわかりづらいかもかもしれないが、先へ読み進めていくことも大切。

5 長文読解

極地よりも低緯度のほうが生物の多様性が高くなるという、生物の多様性をめぐる諸説が述べられた文章。

(1) 解答箇所を見つけられているものの、単語の訳し方などの誤りが見られる答案も少なくなった。life は多義語だが、ここでは「生命」ではなく「生物」が適切。文末は「～こと」や「～というパターン」など体言止めでまとめていないものは減点とした。

(2) 下線部に含まれる単語自体には難しいものはなかったが、自然な日本語で訳す工夫が求められる問題であった。the case を「場合」や「例」と訳していた解答があったが、「実情、そう(いうこと)」という意味。advance はここでは「唱えられた」や「提言された」と訳した方がよい。

第3回 高2数学

総 評

今回は以下の分野から出題した。

「対数関数」「三角関数」「微積分」「確率」

「ベクトル」「図形と方程式」「数列」

レベルとしては、易 ～ 標準 ～ 難と、幅広く出題した。標準レベルのものまでは全員に正解してほしかつたが、残念ながら出来がよくない問題もあった。間違えた問題については、「解答」や「解説」を参考にしっかり復習しておこう。

また、答案の作り方についても意識しておくといい。せっかくわかっていても、理解していることが採点者に伝わらないと点数はもらえない。「解答」の記述も参考に、どのように書けばよいか、どの程度書けばよいかなどについて確認しておきたい。

問題別講評

1 小問集合

(1) アでは、 $2^0 = 0$ と間違えたと思われる答案が散見された。またイでは、真数条件を見落とした答案が多かった。できなかった人は、これを機に十分注意してもらいたい。

(2) 三角関数の合成は基本的にはよくできていたが、三角不等式については、 $\alpha \leq \theta \leq \pi - \alpha$ を答えとするなど、惜しいものが見られた。

(3) 特にキの出来は思ったほどよくはなかった。ここでは、力の結果を利用して省力化するのがポイントである。

(4) 確率の問題であり、クは比較的好くできていたが、ケの出来はあまりよくなく、いろいろな誤答が見られた。

2 微積分

3次関数の微分についての問題。

(1) 極値をもたない条件であるが、「解答」の方法以外にも、方程式 $f'(x) = 0$ を解いて $0 = -2a$ を導いたりして、よくできていた。

(2) a の値による場合分けをした答案も見られたが、「解答」のように処理すればよいことを理解しておこう。また、解と係数の関係を利用することもできる。

(3) $a = 0$ の場合を $a < 0$ の場合に含めてしまったりして、この場合の考察がきちんできていない答案が見られた。このレベルの問題に対しては、きちんとした答案が書けるようになっておいてほしい。

3 ベクトル

三角形と円を題材にしたベクトルの問題。本問や次の4の問題において、様々な図形的な視点を是非身につけてもらいたい。

(1) まずはBCの中点の位置ベクトルを求めたりして、よくできていた。

(2) (i) 与えられた垂直条件を内積を用いて立式できれば、さほど難しくはなかっただろう。

(ii) ABがこの円の直径であることに気づくのが最大のポイントである。この後は三角比を利用したり方べきの定理を利用したりと様々だったが、「解答」や「解説」以外の解法を用いた答案は、途中のミスが目立った。

4 図形と方程式

円の通過領域を求める問題。数式の処理力や図形的な発想力も必要で、難易度は高めである。

(1) 半径を求める際の計算ミスが目についたが、基本的にはよくできていた。

(2) (i) 図形的な条件を方程式の条件に読み替えるのがポイントである。「解答」のように読み替えたあと、数値代入法で処理した答案も見られた。

(ii) (i)の結果を利用するわけだが、白答以外の答案では、まず点Pの軌跡を求めて、図形的に考えたものが多かった。

5 数列

群数列についての問題で、整数の性質と絡めて出題した。

(1) P_n の規則性については、概ね把握できているようだった。

(2) (i) 「解説」のように階差数列を利用したり、数学的帰納法を利用したりと、様々な解法が見られたが、階差が $4n$ であることの説明が不足しているものが目立った。

(ii) 「解答」や「解説」のように5で割った余りに着目した答案はあまり見られず、素直に10で割った余りに着目した答案でも、途中の説明不足のものが多かった。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (40 点)

いずれも答に

- (1) ア：5点, イ：5点10点
- (2) ウ：2点, エ：3点, オ：5点10点
- (3) カ：5点, キ：5点10点
- (4) ク：5点, ケ：5点10点

2 (40 点)

(1) (10 点)

- $f'(x)$ を求めて3点
- $f'(x)=0$ の判別式に4点
- 答に3点

(2) (15 点)

- 極値をもつ条件に2点
- $f(0) \cdot f(-2a)=0$ に8点
- 答に5点

(3) (15 点)

- 場合分けと増減に各2点
- 最小値についての不等式に各1点
- 答や不適に各2点

3 (40 点)

(1) (10 点)

- 答に各5点

(2) (i) (15 点)

- $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC}$ を a で表して6点
- $\overrightarrow{AG} \cdot \overrightarrow{BG}=0$ に3点
- a の方程式に2点
- a^2 の値に2点
- 答に2点

(ii) (15 点)

- $\overrightarrow{AE}=\frac{1}{3}k\overrightarrow{AB}+\frac{1}{3}k\overrightarrow{AC}$ において2点
- $\overrightarrow{AC} \cdot \overrightarrow{BE}=0$ に7点
- k の値に4点
- 答に2点

4 (40 点)

(1) (10 点)

- 円の方程式を変形して4点
- 答に各3点

(2) (i) (15 点)

- a について整理して3点
- 恒等式となる条件に6点
- (x, y) の座標に各2点
- 答に各1点

(ii) (15 点)

- ABを直径とする円に2点
- a についての不等式に2点
- a の値の範囲(答)に2点
- $f(-1) \leq 0$ の式に2点
- $f(3) \leq 0$ の式に2点
- 領域の図示(答)に5点

5 (40 点)

(1) (10 点)

- $P_l(10, 1)$ は第10群の末項に2点
- $l=55$ (答)に2点
- k についての不等式に2点
- P_{200} は第20群の10項目に2点
- $P_{200}(10, 11)$ (答)に2点

(2) (i) (15 点)

- a_n は第 $(2n-1)$ 群の中央の項までの項数に4点

- 第 $(2n-1)$ 群の末項までの項数に2点
- 第 $(2n-1)$ 群の初項までの項数に2点
- a_n を n の式で表して2点
- $n=1$ での成立を確認して3点
- 答に2点

(ii) (15 点)

- b_n の式に3点
- 連続する3整数の積が3の倍数より,
5の倍数を示して3点
- $R(0) \sim R(4)$ に5点
- b_n を5で割ったときの余りは0, 1, 4に2点
- 証明を締めくくって2点

第三回 高二国語

総評

時間制限が厳しかったためか、特に古文・漢文の記述問題での白答も目立った。まずは文法事項・重要単語といった基本知識を確認し、少しでも解答欄を埋められるようにしよう。復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を理解したうえで、再度問題に取り組むとよい。

問題別講評・採点基準

一 評論

一 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。
a 「糾弾」を「叫弾」、b 「墮落」を「惰落」と誤るものが見受けられた。つくりが似ている字を混同しないように、しっかり復習しておこう。

二 誤答はさまざまな選択肢に分散した。傍線部周辺の文脈だけ見ているといずれももっともらしく見えるが、「象牙の塔」「アカデミズム」それぞれの語義をしっかり押さえて検討しよう。

三 [採点基準]

「a 被抑圧者集団といえども b その内に存在する c 批判されるべき問題」を押さえて—— 10点
* a部4点、b c部各3点。

〈被抑圧者集団にどのように反省を促すかという問題〉〈同じ命題でも、誰がどのように言うかによって意味が異なる問題〉という方向でまとめている答案が目立った。解説で示したとおり、傍線部でいう「こうした問題」とは、問題文1行目の「命題」を指す。この前提を受けて、抑圧者集団・第三者集団の人々はどうのような態度をとるべきか、と問題提起を行っているという流れをとらえてほしい。

四 誤答が目立ったのは「両成敗」。これは第三者が「『高みの見物』的立場」から唱えるものとされており、空欄直後の「高みの見物」に含まれる。ここは、抑圧者側の問題ある態度として挙げられている「居直り」が最適。

五 [採点基準]

「a 抑圧者集団の側が被抑圧者集団の側の非を語る時には b 両者の所属の相違という客観的構造を踏まえ、c 友好の姿勢を明確にした上で、d 常に誤解の怖れを持ちつつ e 相手の言い分に耳を傾けて、f 表現の仕方にも気を配り、g 自分なりの理解に基づき問いを投げかけて h 対話を行う」という点を押さえて—— 16点
* a b c d e f g h部各2点。

しっかりと取り組んでいる答案が多かった。〈被抑圧者集団を批判するときは、友好の姿勢を明確にして、誤解されないようにする〉という枠組みに沿ってまとめている答案が多かったが、〈自分が相手を誤解しているかもしれないという懸念〉〈相手の言い分にも

耳を傾ける〉といった〈対話しようとする姿勢〉も押さえてほしい。制限字数が多いため、すべての要素を網羅することは難しかったかもしれないが、しっかり復習しておこう。

六 誤答が目立ったのは才。誤答理由は解説で示したとおりだが、第三者集団のとるべき立場に限定して述べているように読める点からも、問題文全体の趣旨からはずれるといえる。問題文冒頭の「命題」について、抑圧者集団・第三者集団側の人々がどう向き合うべきか、という筆者の問題意識をとらえよう。

二 小説

一 a b cともだいたい押さえられていたが、bでウ、cでアの誤答が見受けられた。bは誤りやすいところだが、「損じない」の語義に忠実なものを選ぶ。c「つくねんど」の意味を知らなかった人はこの機会に覚えよう。

二 誤答は分散していたが、おおむねとらえられていた。人物像をとらえる設問では、自分の思い込みやイメージではなく、文中に根拠が示されていることから判断しよう。

三 [採点基準]

「a 釣り船の船頭として、新たな土地で生活を始める前に、b 横浜で今まで世話になった人々のために、

自分のできるだけのことはやり終えてからこの地を去りたいという思い”を押さえて—— 12点

* a b 部各6点。

「海」はこれからの船頭としての生活、「陸」は今のまでの横浜での生活、という大枠は押さえられていた。ただ「陸」での生活について、「吉居の親戚にこき使われていた」「雑用ばかりの生活も離れば懐かしくなる」など否定的なとらえ方をしているものがあつた。確かに六さんは吉居の親戚から重宝に使われていたが、「目につく限り……駆けまわった」「自分がいなくなっても当分は大丈夫」という記述からは、吉居の人々に対してできるだけのことをしているという、六さんの好意的な心情がうかがえる。これが「こまごまとした情」である。なお、「情」について『新明解国語辞典』では、「人間関係が深まるにつれて、高まつてくる（ことが期待される）暖かい感情」と説明している。

四 よくとらえられていた。「得手に帆をあげる」の意味を知らなくても、直後の「もう誰の……あやつつてな」から判断できただろう。

五 「採点基準」

” a 隆之介の死を最も悲しんでいるのはずのふさ子が悲しみに浸る姿を見せずに気強くふるまう以上、b 自分も泣き顔を見せずに祖父を見送りたいという思い”を押さえて—— 11点

* a 部7点、b 部4点。

よくとらえられていた。「誰よりもふさ子が」の説

明では「誰よりも一番隆之介の死を悲しんでいるふさ子が」のように、言葉を補って説明できていた。「気丈を通す」と傍線部の表現のままのものがあつたが、ここは自分の言葉で「気丈に振る舞う」などと言い換えたい。また杏子について「前を向いていこうと思った」と説明したものがあつたが、「前を向く」は比喩的な表現なので、もう一步踏み込んで説明したい。

六 誤答は分散していたが、ややエが目立つた。「晴れがましきにも似た感覚」は隆之介の「潔い終わり方」を周囲が「幸せ」と納得し、敬意をもつて受け入れていることからくるものだから、「無責任ともいえる明るさ」とはいえない。表現の特徴についての問題を解く際は、選択肢を比較検討していく姿勢が、よりいっそう重要となる。言い過ぎのものや明確な根拠のないものを確実に除いていくこと。

三 古文

一 xyzとも誤答は分散していた。品詞の識別は古文読解の大事な基礎となる。ここで間違えてしまった人はもう一度しっかり復習しておこう。

二 aを「にこやかに」とかん違いしたものがあつた。「にほひ」の語義を押さえておこう。bはよくできていた。「思い出される」だと受身にとれてしまうので、尊敬だとはつきりわかるように表現を工夫しよう。c「飽かず」は〈満足しない〉〈飽きない〉の

意味で覚えている人が多いが、〈心残りだ〉という意味もあることをこの機会に覚えておこう。

三 Aは「すでに亡くなっている」「もう生きていない」という旨の解答があつた。「今は世にいない人だ」と思っているだろう」というのは中宮の言葉で、若君の言動にはない。Bは〈中宮が母ではないか〉という点は押さえられていた。Cの誤答は分散していた。この箇所は若君・中宮とも心中語で「」が付いていないので、どの箇所を解答の根拠にすればよいのが難しかったのだろう。このような箇所では、引用を表す「と」などに着目して、慎重に読み進めたい。

四 「採点基準」

” aあなたのお母さんは b私としかるべき縁のある人なので cあなたのことを dあなたのお母さんは eたいそう忘れがたく f恋しく思い申し上げているようなのを g私は見るのが気の毒なので”と訳して—— 13点

* a 部1点、b 部3点、c d e 部各1点、f g 部各3点。

傍線部の中にポイントとなる単語や文法事項が複数含まれており、人物関係がわかるように言葉を補って、それぞれを適切に訳出することが求められている。cは「(若君の)御こと」だが、「母君のこと」と解釈したものがあつた。また、「恋ひ聞こゆめる」の「める」を訳していないものもあつた。助動詞・助詞も見落とさずに訳そう。

五 「採点基準」

「a 中宮の、b 同じ我が子なのに、c 皇子たちとは異なり宮中から離れた場所へ暮らす d 若君を e かわいそうに思う気持ち」を押さえて——8点
* a d 部各1点、b c e 部各2点

「誰の」が中宮であることはよく押さえられていた。「心情」については、「若君と離れたことを嘆く」「若君に対してすまないと思う」など、中宮自身に向けた気持ちととらえたものが目立った。和歌を詠むきっかけになったのは「宮々にうちかしこま」っている若君の姿を見て「いとあはれ」と思ったことで、詠まれているのは「田鶴の子（若君）」なので、若君に向けた気持ちととらえたい。

六 誤答は分散していたが、アがやや目立った。「御簾をひき着て候ふ」とは、御簾を肩にかけるようにしてかしこまっている姿の描写。中宮と呼ばれて、二の宮は屈託なく母の部屋に入るが、若君は自分の身分をわきまえて部屋には入らない。内容合致の問題では、現代文同様、選択肢の細部にキズがないか、一つ一つ丁寧に吟味していくことが大切である。解説と問題文全訳を参考に、誤りのポイントを確認しておこう。

四 漢文

一 読み・意味ともに解答するのは難しかったかもしれない。解説でしつかり復習しておこう。

二

一 よくできていたが、一レ点の使い方をよくわかっていないように思われるものも散見された。返り点のルールは漢文学習の基本。読む順番を確認し、どのように返って読めばよいのかをとらえよう。

「採点基準」

「a 宮廷内の作法礼法につきましては、b 慎み深く行わなければならない」と訳して——5点
* a 部2点、b 部3点

後半部を「慎まないことができない」〈慎まないわけはない〉など、「不可不」が二重否定であることはとらえているがニュアンスがずれる訳出になっているものが見受けられた。「不可」の禁止の意をとらえ、〈しななければならない〉という強い肯定の意を明確にしよう。

三 「採点基準」

「a 来たらずんば b 且に c 通を斬せ b んとす」と書き下して——5点
* a b 部各2点、c 部1点

「不来」が〈もしも来府しないならば〉という仮定を示し、「且斬通」という後半部と切り分けられることが読めていないものが目立った。「且に……んとす」という再読文字は基本的なもので、しつかり復習しておこう。

四 「採点基準」

「a 鄧通は b 額を地に擦りつけ、c (額から) 血

を流してまで b 謝罪したのだが、d 申屠嘉の怒りは解けなかった」と訳して——6点
* a c 部各1点、b d 部各2点

「鄧通が額から出血するほど謝罪している様子」はおおむねとらえられていたが、「解」を〈申屠嘉の怒りが解ける様子〉ととらえられているものは少なかった。口語訳の問題なので、〈謝罪しても許されない〉という方向ではなく、「解」が意味するものを正確にとらえてほしい。

五 誤答はア・オが目立った。解説に示したように「上」「丞相」「通」という主語と動詞の関係を整理して丁寧に意味をとらえよう。

六 「採点基準」

「皇帝と申屠嘉が、宮廷の礼法を正すために示し合わせて、鄧通を反省させてから許した」ととらえたものが可、8点。

「申屠嘉が、皇帝から正式な使いが来たので、鄧通を許した」ととらえたものは4点。

「申屠嘉が鄧通を許した」ことのみを押さえたものは2点。

鄧通⇨丞相ととらえるものなど、人物関係を読み誤ってしまう答案も見受けられた。模範解答レベルの答案を作成するのは難しいだろうが、〈誰が誰を責めて許したのか〉という流れはしつかりとらえてほしい。